
**園芸福祉スキルアップ講座
～苗の植え付け編～**

2009.11.7

花と緑と健康のまちづくりフォーラム

大森敦子

はじめに

園芸福祉活動で大切なことは、植物を通してみんなで楽しく活動をするということです。

だから花を植える時でも、必ずしもデザインや出来ばえを優先しなくても良いですよ。

でも、せっかく植えるのだからできるだけ元気に育てて欲しいものです。

そのために私達にできることは何なのか？

基本的なことばかりですが、今日はみんなで考えながら勉強していきましょう。

講座スケジュール

- 植える前にやることの確認 葉、根、花の状態をチェックをしましょう。
- 植え込み時の注意点
土の状態をよく見て、植え込み間隔と植え込みの高さの確認をしましょう。
- 植え込み後の注意点
水遣りの加減、切り戻しなどについて勉強しましょう。

植える前にできること～まず苗の状態を知りましょう

■ 葉の色や状態は？

元気の良い苗ですか？

苗の元気がない時はまず病気か虫か見きわめましょう。(病気と虫では薬剤の種類が違います)

Q:黄色の葉っぱが多いけれどこれって栄養不足？

A:栄養不足(おそらく窒素不足)です。植え込み時に元肥を与えるか、植え込んで10日後くらいに肥料を与えておきましょう。

Q:葉っぱに斑点があるみたいだけど？

A:病気の種類かもしれません。

斑点の病気は何種類かありますが、ほとんどがカビ菌が原因です。殺菌剤を散布しましょう。
(斑点ではなく白い粉状の見える場合はウドンコ病です)

Q:虫に食われてる！

A:待ってはいけません。すぐに殺虫剤を。(例:オルトランなど)

できればどんな虫なのか確認してそれにあった薬を使用すると良いですね。

枯れた葉、痛んだ葉は病気の原因に！できるだけ植え込む前に取り除きましょう。
植えた後で掃除するほうが手間がかかります。

■ 花の咲き具合は？

これから咲こうとしている蕾(つぼみ)がたくさんついていますか？咲き柄はついていませんか？

Q:花が沢山咲いていて良い苗です。何か問題があるの？

A:あまりたくさん咲いているようだったら少し摘んでから植えるのがオススメです。

花柄も全部摘み取って下さい。そうすることで根にも養分がいきわたり元気に根付きます。

植える前にできること～まず苗の状態を知りましょう 2

■ 根っこの状態は？

ポットの中の土は柔らかい？それとも硬いですか？植える前に確かめていますか？
根の状態がどうなっているのかきちんと確認しましょう。

Q:どの程度だったら固いのか、それとも柔らかいのかわからないんだけど？

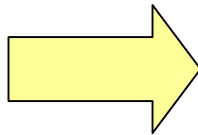
A:ポットを逆さにして、手を苗に添えてそっと抜いてください。

土が見えないほど白い根がグルグル巻きになっているようだったら育ちすぎです。
このまま植えても水や養分を吸い上げにくいのでほぐしてから植えましょう。

- * 真っ白な状態→下の1cmくらいにはさみを入れてほぐします。この場合は少し上も切り戻すことをおすすめします。
- * 土は見えるけれど結構固い状態→手で軽くほぐします。



育ちすぎて白い根が固まって見えます



手やハサミを使ってほぐしましょう

植え込む時の注意点

■ 花壇の土の状態は？

耕して肥料も入れてある状況なら問題ありません。
そうでない場合は軽く耕して平らにならし、できれば緩行性の肥料を入れましょう。

全体を耕すのが無理だったら、植える苗のまわりだけでも柔らかくしましょう。
目安は苗の根鉢の倍くらいの深さと幅を移植コテで掘り返すと良いです。

花壇の土は酸性に偏りがちです。**植え込みの10日ほど前に石灰**をまき、酸度の調整をしましょう。
(花を植える場合の土の酸度＝Ph6.5～7度くらい)

■ 植え込み間隔について

移植コテを横に置いたくらいの幅があればOKです。
秋冬は成長が遅いから多めに植えてもよいですが、春～夏は一つの株が直径30cmくらいには成長することをイメージしましょう。

■ 植え込む苗の高さ

苗の根鉢の土の高さと、植え込む地面の高さは同じにするのが基本。
株元まで土がかぶってしまうと蒸れて腐ったり、病気の原因になったりします。
植える時、隙間がないように土を戻し、両手で株元の土を平らにならすとうまくいきます。
最後に土が株もとにかぶっていないか確認しましょう。

例：夏に向けて植えるペチュニアなど。葉が垂れ下がって咲き、蒸れやすいものは少し高めに植えると良いです。逆に、クレマチスのように深く植えるほうが良い植物もあります。

植え込み後の注意点

■ 水遣りについて

水遣りは十分にできていますか？花壇ではなく、一つの苗がそれぞれ鉢に植わっているとイメージしてください。そして鉢の底から水が溢れ出すくらいに与えるつもりで、たっぷりと水遣りしましょう。

■ 切り戻しについて

寒すぎる時、暑すぎる時はあまり乱暴に切り戻しをすると弱ってしまいます。
年明け～2月、梅雨明け～8月末は要注意。
逆に考えるとそれ以外の季節は多めに切り戻してもたくさん咲くので大丈夫です。
花の種類にもよりますが、上手に夏越しできた株は8月下旬くらいに強めに切り戻して肥料をあげておくと、9～11月にびっくりするような良い花が咲くかもしれません！

最後に

これらのことを作業中に指導したりすることが良いかどうかは場合によると思いますが、植えた翌日、一週間後、一ヶ月後のことをイメージし、苗が順調に育つかどうかを見極める力をつけ、そのために何をしたら良いのか考えて行動することが必要となってきます。
参加した人達が皆「花っていいな、植物っていいな」と思えるよう、今後もスキルアップの機会をつくり皆で勉強していきましょう。